

パースナリティ・テストからみた中学生の非行と登校拒否

——R-F 反応と予後を中心に——

一谷 彊・西川 満・林 勝造・津 田 浩 一

A Study of Junior High School Students' Delinquency and School Refusal by Personality Test with Special Reference to Relationship between Reaction to Picture-Frustration and Prognosis

Tsuyoshi ICHITANI, Mitsuru NISHIKAWA,
Katsuzo HAYASHI, and Kohichi TSUDA

Received April 30, 1981

I. 問題と目的

現在、各種相談機関は、中学生の非行や登校拒否に対する対応（指導・援助・カウンセリング・セラピー等）に苦慮している面が多いことは否定しえない。

これまでに我々は Rosenzweig P-F Study を用いて、中学生や学童期にある生徒・児童を対象に、非行行動のみられるものについて予後との関係を検討吟味したり¹⁾ また、登校拒否を主訴とするものについて P-F 反応のレベルから予後との関係をみたりしてきた。²⁾

いずれの研究においても、P-F 反応と予後とのあいだに、示唆的に一定の反応特徴のあることを見出すことができたが、今回は、同時に、これら非行と登校拒否とを取り扱い、予後との関連をみることによって、今後の彼らへの対応様式に示唆を得たいと考えた。

ここでは P-F 反応（児童用 P-F Study を使用）を中心に、中学生期にある青少年の非行と登校拒否を主訴とする生徒について、主として予後との関連について吟味することを目的とする。これまでの研究との主たる差異は、非行児、登校拒否児ともに施設収容中の P-F 反応を検討してきたのに対して、今回は intake 時のそれを予後との関連で検討することにある。

II. 方 法

1. 対象児

対象児は、非行の場合も登校拒否の場合も、警察通告、学校通告、ないしは家庭通告のいずれかによって児童相談所に来所判定した中学生である。対象児数の具体的内訳は表1に示すとおりである。全体としては92名で、年齢範囲は12歳5カ月から15歳5カ月にわたっており、平

表1 対象児の具体的内訳

	予 後 性 別		改 善 (一過性)	不 変 (要再指導)	計
	型	性別			
非 行	I 型 (窃 盗)	男	14	11	25
		女	2	1	3
		計	16	12	28
	II 型 (粗 暴)	男	6	5	11
		女	0	0	0
		計	6	5	11
行	III 型 (その他 : シンナー吸引, 不純異性交遊など)	男	3	2	5
		女	3	8	11
		計	6	10	16
	計	男	23	18	41
		女	5	9	14
		計	28	27	55
登 校 拒 否	予 後 性 別		I 型 (登 校) 改 善	II 型 (断 続 的) 不 変	計
	男		12	8	24
	女		4	3	13
	計		16	11	37
			27	10	

均は、非行群が14歳3カ月、登校拒否群が13歳8カ月である。

また、予後調査までの経過期間は、非行群が平均3年5カ月（範囲は1年1カ月～5年4カ月）、登校拒否群が平均3年3カ月（範囲は1年1カ月～5年11カ月）であった。

非行群については、その行動特徴によってI型（窃盗、車上ねらい、バイク盗、自転車盗など）、II型（粗暴行為を主とするもの）、およびIII型（シンナー吸飲、不純異性交遊などI、II型以外のもの）とした。これらについてはその型によって男女の比率に多少の相異がみられるが、ここでは一応男女をこみにして処理することにした。

また、非行群の予後については、予後調査時において改善されて非行的行動のみられないものを改善（一過性）群とし、未だ改善のみられにくいものを不変（要再指導）群として一括した。

登校拒否群については、予後も、I型（予後調査時において元気に登校している）群、II型（断続的にはあるが登校するようになっている）群、III型（未だ登校困難で改善のみられにくい、不変）群に分けた。ここでも男女の比率は対応的ではないが今回は人数の関係等もあって一括して処理にすることにした。

要するにここでの報告では、非行—改善（一過性）群28名、非行—不変（要再指導）群27名、登校拒否—改善（Ⅰ型とⅡ型）群27名、登校拒否—不変（Ⅲ型）群10名としてデーター処理を試みたことをことわっておく。

なお、予後評定に際しては、児童相談所の児童記録票と児童相談所職員（主としてケース・ワーカー）からの情報に基づいて行なった。

2. 手続き

P-F Study の実施は intake 時に行なった。P-F 使用手引³⁾に忠実に従って実施したものである。また scoring についても、同様に、ローゼンツァイク 人格理論⁴⁾と上記手引書に従って行なった。年齢的には成人用も実施可能な面もあるが、intake 時の年齢分布（表1参照）からみて、児童用を適用することとした。なお、P-F Study の実施は対象児の intake 面接時の前後いずれかであるが、これについてはその時の状況に応じているため、一様ではないことをことわっておく。

III. 結果と考察

1. 反応評点因子別及び反応カテゴリー別の傾向について

上述のような対象児について、また、上記の手続きによって実施した児童用 P-F Study を各種の反応評点因子別や反応カテゴリー別にまとめて、各群の平均と標準偏差を求め、さらに2要因の分散分析——A要因は「非行」対「登校拒否」、B要因は予後の「改善」対「不変」——を行なって、一覧表にとりまとめたものが表2（表2—1より表2—22まで）に示されている。（なお、ここでは、有意水準を20%レベルまでさげて、どのような傾向的結果が示されるかをみてみることにした。）以下ではそれぞれの反応ないし反応カテゴリー別に結果を考察する。

GCR %についてはいずれの要因にも、交互作用にも有意差はない（表2—1）。

E'-反応（表2—2）については、分散分析表にみるように、「予後」について5%水準で有意差がみられる。つまり、予後不変のものについて改善のものよりも有意に E'-反応が多い。E'-反応は Rosenzweig⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾によると、いわゆる extrapeditive な反応で、外的障害の認知ないし強調にとどめるものである。つまり、Eないしeの反応までにはいたらず、いわゆる supression with consciousness とも考えられる反応である。失意や失望の表明にとどまるもので、自己主張 (self-assertion) や企図 (enterprise) ないしは他者非難・他者攻撃にまでいたらないものである。⁴⁾ この種反応が予後不変のものに多いことは、E'-反応をE-反応にまで発展しきれず抑制しているがために、行動にも改善がみられにくいことを示唆するものと解したい。

E-反応（表2—3）では、「予後」の要因と交互作用効果とに20%水準で有意な差のある傾向がうかがえる。とりわけ、登校拒否の予後不変群でこの反応が少ない。しかも標準偏差も小さいのである。改善群の方が非行群も登校拒否群もともに E-反応の高いことは、それなりに自己主張、企図の傾向をもち、内的な積極性をもっていることが示唆される。

e-反応（表2—4）は、交互作用効果に10%水準で有意な差のある傾向を示す。とりわけ、登校拒否の予後不変群でこの反応が少ないのである。e-反応は他者からの庇護・救済を求める依存的反応と解されるが、積極的にいえば、“他者にまかせる”ことのできる可能性のようなもので、これが登校拒否の予後不変群に少ないところに、他者にまかされにくいところのいう

表2 (表2-1～表2-22) 各種反応および反応カテゴリーの平均と標準偏差及び分散分析の結果
〔各表の左側は各群の平均と標準偏差(括弧内)を、右側は分散分析の結果を示す。〕

〔表2-1〕GCR%について

GCR%			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	62.2	62.2	62.2
		S. D.	(15.04)	(14.00)	(14.54)
	不変	$\bar{X}$	65.3	62.5	64.6
		S. D.	(11.72)	(13.04)	(12.16)
全 体		$\bar{X}$	63.7	62.3	63.1
		S. D.	(13.61)	(13.75)	(13.68)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	46.79	1	46.79	—
B(予後)	125.74	1	125.74	—
A×B	11.79	1	11.79	—
Error	17038.68	88	193.62	
Total	17223.00	91		

〔表2-2〕E'-反応について

E' //		(A) 非行vs登校拒否		全 体	
		非 行	登校拒否		
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	1.16	1.19	1.17
		S. D.	(1.232)	(1.156)	(1.196)
	不変	$\bar{X}$	1.61	1.55	1.59
		S. D.	(1.030)	(1.059)	(1.039)
全 体		$\bar{X}$	1.38	1.28	1.34
		S. D.	(1.160)	(1.142)	(1.154)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	0.21	1	0.21	—
B(予後)	3.93	1	3.93	2.933 P < 0.05
A×B	0.17	1	0.17	—
Error	118.15	88	1.34	
Total	122.46	91		

〔表2-3〕E-反応について

/ E /		(A) 非行vs登校拒否		全 体	
		非 行	登行拒否		
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	5.93	5.65	5.79
		S. D.	(2.954)	(2.293)	(2.653)
	不変	$\bar{X}$	5.48	3.75	5.01
		S. D.	(2.566)	(1.167)	(2.401)
全 体		$\bar{X}$	5.71	5.14	5.48
		S. D.	(2.779)	(2.217)	(2.583)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	7.29	1	7.29	1.111
B(予後)	13.37	1	13.37	2.038 P < 0.20
A×B	15.67	1	15.67	2.389 P < 0.20
Error	577.63	88	6.56	
Total	613.96	91		

〔表2-4〕e-反応について

// e			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登行拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	2.63	3.28	2.95
		S. D.	(1.907)	(1.468)	(1.736)
	不変	$\bar{X}$	3.11	2.40	2.92
		S. D.	(1.542)	(0.995)	(1.450)
全 体		$\bar{X}$	2.86	3.04	2.93
		S. D.	(1.754)	(1.411)	(1.627)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	0.69	1	0.69	—
B(予後)	0.02	1	0.02	—
A×B	8.85	1	8.85	3.327 P < 0.10
Error	234.05	88	2.66	
Total	243.61	91		

〔表2-5〕I'-反応について

I' //			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予後	改善	$\bar{X}$	1.14	1.31	1.23
		S. D.	(0.610)	(0.550)	(0.586)
	不変	$\bar{X}$	1.07	1.35	1.14
		S. D.	(1.086)	(0.550)	(0.979)
全 体		$\bar{X}$	1.11	1.32	1.20
		S. D.	(0.877)	(0.548)	(0.770)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	1.03	1	1.03	1.702 P < 0.20
B(予後)	0.14	1	0.14	—
A×B	0.07	1	0.07	—
Error	53.24	88	0.605	
Total	54.48	91		

〔表2-6〕I-反応について

/ I /			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	4.48	4.15	4.32
		S. D.	(1.623)	(1.621)	(1.630)
	不変	$\bar{X}$	4.48	5.00	4.62
		S. D.	(1.316)	(1.718)	(1.454)
全 体		$\bar{X}$	4.48	4.38	4.44
		S. D.	(1.480)	(1.690)	(1.569)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	0.24	1	0.24	—
B (予後)	2.04	1	2.04	—
A × B	3.25	1	3.25	1.295
Error	220.89	88	2.51	
Total	226.42	91		

〔表2-7〕i-反応について

//i		(A) 非行vs登校拒否		全 体
		非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	0.55	0.71
		S. D.	(0.711)	(0.824)
	不変	$\bar{X}$	0.85	1.09
		S. D.	(0.941)	(1.270) (1.114)
全 体		$\bar{X}$	0.70	0.86
		S. D.	(0.845)	(1.085) (0.970)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	3.68	1	3.68	4.279 P < 0.05
B (予後)	3.26	1	3.26	3.791 P < 0.10
A × B	3.61	1	3.61	4.198 P < 0.05
Error	76.00	88	0.86	
Total	86.55	91		

〔表2-8〕M'-反応について

M' //			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	1.11	1.11	1.11
		S. D.	(1.003)	(0.641)	(0.834)
	不変	$\bar{X}$	1.19	1.65	1.31
		S. D.	(0.722)	(0.838)	(0.783)
全 体		$\bar{X}$	1.15	1.26	1.19
		S. D.	(0.877)	(0.722)	(0.820)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	0.27	1	0.27	—
B (予後)	0.90	1	0.90	—
A × B	1.34	1	1.34	1.985 P < 0.20
Error	59.41	88	0.675	
Total	61.92	91		

〔表2-9〕M-反応について

/ M /			(A) 非行 vs 登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	4.07	4.02	4.04
		S. D.	(1.673)	(1.542)	(1.610)
	不変	$\bar{X}$	3.69	4.25	3.84
		S. D.	(1.785)	(1.504)	(1.732)
全 体		$\bar{X}$	3.88	4.08	3.96
		S. D.	(1.740)	(1.531)	(1.664)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	0.88	1	0.88	—
B (予後)	0.96	1	0.96	—
A × B	1.48	1	1.48	—
Error	251.30	88	2.86	
Total	254.62	91		

〔表2-10〕m-反応について

//m		(A) 非行vs登校拒否		全 体	
		非 行	登校拒否		
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$ S. D.	2.29 (1.305)	2.11 (0.956)	2.20 (1.150)
	不変	$\bar{X}$ S. D.	2.07 (1.136)	2.30 (1.568)	2.13 (1.272)
全 体		$\bar{X}$ S. D.	2.18 (1.230)	2.16 (1.157)	2.17 (1.201)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	0.00	1	0.00	—
B (予後)	0.08	1	0.08	—
A × B	0.79	1	0.79	—
Error	131.83	88	1.498	
Total	132.70	91		

〔表2-11〕E%について

E %		(A) 非行vs登校拒否		全 体	
		非 行	登校拒否		
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	41.9	42.4	42.1
		S. D.	(12.93)	(11.09)	(12.06)
	不変	$\bar{X}$	42.9	32.1	39.9
		S. D.	(10.10)	(6.80)	(10.48)
全 体		$\bar{X}$	42.4	39.6	41.3
		S. D.	(11.64)	(11.09)	(11.50)

〔表2-12〕I%について

I %			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	26.8	27.5	27.1
		S. D.	(8.10)	(6.69)	(7.45)
	不変	$\bar{X}$	27.7	33.8	29.3
		S. D.	(6.22)	(6.73)	(6.92)
全 体		$\bar{X}$	27.2	29.2	28.0
		S. D.	(7.25)	(7.27)	(7.32)

〔表2-13〕M%について

M %			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	31.3	30.2	30.7
		S. D.	(10.68)	(6.83)	(9.02)
	不変	$\bar{X}$	29.4	34.1	30.7
		S. D.	(7.91)	(7.69)	(8.12)
全 体		$\bar{X}$	30.4	31.2	30.7
		S. D.	(9.47)	(7.28)	(8.67)

〔表2-14〕O-D%について

O-D %			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予後	改善	$\bar{X}$	15.9	15.3	15.6
		S. D.	(6.94)	(5.97)	(6.49)
	不変	$\bar{X}$	17.3	19.2	17.8
		S. D.	(6.96)	(4.69)	(6.48)
全 体		$\bar{X}$	16.6	16.4	16.5
		S. D.	(6.99)	(5.91)	(6.58)

〔表2-15〕E-D%について

E-D %			(A) 非行 vs 登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	60.6	57.8	59.2
		S. D.	(8.62)	(8.02)	(8.45)
	不変	$\bar{X}$	57.2	54.2	56.4
		S. D.	(11.55)	(7.88)	(10.76)
全 体		$\bar{X}$	58.9	56.8	58.1
		S. D.	(10.31)	(8.14)	(9.55)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	172	1	172	1.354
B(予後)	107	1	107	—
A×B	674	1	674	5.308 P < 0.025
Error	11210	88	127	
Total	12163	91		

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	84	1	84	1.615 P = 0.20
B(予後)	105	1	105	2.019 P < 0.20
A×B	197	1	197	3.788 P < 0.10
Error	4542	88	52	
Total	4928	91		

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	17	1	17	—
B(予後)	0.5	1	0.5	—
A×B	160	1	160	2.092 P < 0.20
Error	6733.5	88	76.5	
Total	6911	91		

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	1	1	1	—
B(予後)	110	1	110	2.532 P < 0.20
A×B	30	1	30	—
Error	3838	88	43.6	
Total	3979	91		

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	100	1	100	1.10
B(予後)	179	1	179	1.97 P < 0.20
A×B	75	1	75	—
Error	8041	88	91	
Total	8395	91		

〔表2-16〕N-P%について

N - P %			(A) 非行 vs 登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	23.9	27.2	25.5
		S. D.	(11.11)	(8.30)	(9.97)
	不変	$\bar{X}$	25.6	26.8	26.0
		S. D.	(9.21)	(9.20)	(9.22)
全 体		$\bar{X}$	24.7	27.1	25.7
		S. D.	(10.26)	(8.55)	(9.68)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	123	1	123	1.281
B(予後)	3	1	3	—
A×B	40	1	40	—
Error	8451	88	96.03	
Total	8617	91		

〔表2-17〕E%について

E%		(A) 非行vs登校拒否		全 体	
		非 行	登校拒否		
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	5.2	5.4	5.3
		S. D.	(4.17)	(3.75)	(3.97)
	不変	$\bar{X}$	4.8	4.4	4.7
		S. D.	(5.54)	(3.67)	(5.11)
全 体		$\bar{X}$	5.0	5.1	5.0
		S. D.	(4.89)	(3.75)	(4.47)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	0.4	1	0.4	—
B(予後)	7.9	1	7.9	—
A×B	1.1	1	1.1	—
Error	1829.5	88	20.8	
Total	1838.9	91		

〔表2-18〕I%について

I %			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	6.0	5.0	5.5
		S. D.	(5.52)	(4.42)	(5.03)
	不変	$\bar{X}$	3.6	6.6	4.4
		S. D.	(4.50)	(6.89)	(5.42)
全 体		$\bar{X}$	4.8	5.5	5.1
		S. D.	(5.19)	(5.25)	(5.22)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	9.1	1	9.7	—
B(予後)	27.9	1	27.9	1.022
A×B	69.6	1	69.6	2.549 P < 0.20
Error	2401.9	88	27.3	
Total	2508.5	91		

〔表2-19〕E+I%について

E + I %			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	11.2	11.2	11.2
		S. D.	(8.09)	(5.54)	(6.96)
	不変	$\bar{X}$	8.5	11.2	9.2
		S. D.	(8.37)	(6.14)	(7.93)
全 体		$\bar{X}$	9.9	11.2	10.4
		S. D.	(8.34)	(5.71)	(7.42)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	39	1	39	—
B(予後)	86	1	86	1.536
A×B	14	1	14	—
Error	4931	88	56.0	
Total	5070	91		

〔表2-20〕E-E%について

E-E%			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予 後	改善	$\bar{X}$	19.4	17.6	18.5
		S. D.	(12.75)	(9.52)	(11.31)
	不変	$\bar{X}$	18.3	11.1	16.4
		S. D.	(10.66)	(7.85)	(10.48)
全 体		$\bar{X}$	18.9	15.8	17.6
		S. D.	(11.78)	(9.54)	(11.04)

変 動 因	SS	df	MS	F
A(非行vs登校拒否)	201	1	201	1.661 P < 0.20
B(予後)	103	1	103	—
A×B	221	1	221	1.826 P < 0.20
Error	10678	88	121	
Total	11203	91		

〔表2-21〕I-I%について

I-I%			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予後	改善	$\bar{X}$	12.7	12.3	12.5
		S.D.	(6.19)	(6.25)	(6.22)
後	不変	$\bar{X}$	15.1	14.1	14.8
		S.D.	(6.15)	(6.42)	(6.86)
全 体		$\bar{X}$	13.9	12.8	13.5
		S.D.	(6.29)	(6.95)	(6.59)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	27	1	27	—
B (予後)	120	1	120	2.759 P = 0.10
A × B	17	1	17	
Error	3825	88	43.5	
Total	3989	91		

〔表2-22〕M+I%について

M+I%			(A) 非行vs登校拒否		全 体
			非 行	登校拒否	
(B) 予後	改善	$\bar{X}$	36.8	36.1	36.4
		S.D.	(11.72)	(10.19)	(11.00)
後	不変	$\bar{X}$	33.0	39.0	34.6
		S.D.	(7.78)	(9.56)	(8.71)
全 体		$\bar{X}$	34.9	36.9	35.7
		S.D.	(10.15)	(10.11)	(10.18)

変 動 因	SS	df	MS	F
A (非行vs登校拒否)	86	1	86	—
B (予後)	71	1	71	—
A × B	179	1	179	1.713 P < 0.20
Error	9200	88	104.5	
Total	9536	91		

なれば一種の自己完璧主義 (self-perfectionism) がうかがえ、それが行動を制縛しているのではないかと考えられる。

I'-反応 (表2-5) は、「非行」対「登校拒否」のA要因に20%水準で有意な差の傾向が認められる。つまり、登校拒否群の方がわずかながら非行群よりも I'-反応が多い。これは、I'-反応が自己防衛機制的には isolation (感情分離) を示唆していることから理解できる。欲求不満に直面して、自己の感情を露呈せず切り離してしまおうとして自己防衛するのである。それが登校拒否群に多いことは、そのことから学校へいきたくても行けなくさせているひとつの要因とも受けとれるのである。

I-反応 (表2-6) にはいずれにも有意差は認められないが、i-反応 (表2-7) には注目すべき有意差がみられるのである。A要因、B要因ならびに交互作用いずれにも10%水準ないし5%水準以下で有意差が認められるのである。つまり、非行群よりも登校拒否群の方が高いこと、予後改善群よりも不変群、とりわけ、登校拒否不変群に高いことは注目に値する。

i-反応は、要求固執的だがそれを自己に帰着させる反応で *defence mechanism* の見地からすると、undoing (帳消しまたは取消し) によって自己防衛しているものである。つまりある種の強迫的傾向を示すものといえる。これが登校拒否群に高く、予後不変群に高い。しかも、登校拒否—予後不変群に最も高いことは、あまりにも強迫的、または、perfectionism 的傾向がつよいために、身動きならない異常固着の段階にとどまっていることを示唆するものと思われる。

M'-反応は有意水準は20%だが、交互作用に差がみとめられている。しかも登校拒否—予後不変群に高いのである。この反応はいわば、「大したことではない」と事態を無視 (negotiation) するもので、そこにそれなりの抑制のかかっていることを考慮するとよく理解できる。M-反応や、m-反応には有意差は認められない。

全体としての外罰反応 (E%) は表2-11にみるとおり、交互作用に2.5%水準以下で有意差が

みとめられる。他群に比して登校拒否—予後不変群に有意に低いことが特徴である。Rosenzweig によると、⁴⁾ 外罰反応カテゴリーは、一般に、外部に向けられた攻撃要求と処罰を恐れる自我が働いており、防衛様式としては、そのために投影 (projection) の様式をとるとされる。登校拒否—予後不変のものにこれが低いことは次の表 2—12 の **I** % (内罰反応カテゴリー) とあいまってよく理解できる。ここでは交互作用効果に 20% 水準で有意差がみられ、登校拒否—不変群にこれが高いのである。

内罰反応は、罪悪感を伴う自己非難が根底にあり、そのため内部に向けられる攻撃の要求と、処罰を望む自己同一視の傾向があるとされる。防衛様式としては displacement (置換え) や isolation (感情分離) をとり、精神異常としては強迫神経症が想定されている。登校拒否—予後不変のものにこれが高いことはある程度同定 (identify) 可能であり、そのためにまた、登校がなかなかむずかしいこととなるのであろう。

M % (無罰反応カテゴリー) は交互作用に 20% 水準程度で有意差のある傾向を示している (表 2—13)。これも、登校拒否—予後不変群に高いのである。この種反応は羞恥をともなった当惑のゆえに、自他を許容するものだが、背景的には性愛的要求が想定され、愛情喪失を恐れる自我と、疎隔 (alienation) を恐れる自我とがはたらき、ひいては、愛情獲得への要求が考えられる。このために抑圧 (repression without consciousness) のメカニズムが働くと考えられるが、同時にまた、このようにして事態の不可避性に言及し、無関心 (unconcern) をよそおうこともある。ここではむしろこの無関心をよそおう点を重視した方がよいのではないかと思われる。

O—D % (表 2—14) は、予後の改善—不変 (**B** 要因) で 20% 水準の有意差の傾向を示している。つまり予後不変のものの方が改善のものより **O—D** 反応が多い。一般に **O—D** 反応は障害優位型の反応で、いわば、欲求不満事態での障害を強調する程度にとどまり、自我防衛反応や要求固執反応にいたらないわけである。いわば抑制的であることを含蓄する。置かれた事態で自分なりに十分に反応できないところに問題があるといえるだろう。

逆に **E—D** % (表 2—15) は、**B** 要因 (予後の改善—不変) で差がみられる (20% 水準) が、むしろこれは、予後—改善のものに高いのである。それなりにうまく内的エネルギーを開放しているといえるのではなかろうか。障害の認知 (**O—D**) にとどめず、自我防衛的レベルにまで反応をおしやっているわけである。**N—P** % (表 2—16) をみると、ここでは有意差はない。

E % (表 2—17) では有意差はないが、**I** % (表 2—18) では **A** × **B** の交互作用に差が認められ (20% 水準)、登校拒否—予後不変のものに高いといえる。超自我阻害の場面において、自己肯定による弁解 (言い訳) しかできないこと、“たしかに自分がわるかった。でも斯々然々の事情があったのだ” としかいえず、“自分ではない” とはいえないところがあることが、行動阻害を惹起せしめる一因ともなりうることをほのめかしている。

E + I % (表 2—19) には有意差はみとめられない。

E—E % では **A** 要因 (非行 対 登校拒否) と交互作用にそれぞれ 20% 水準で有意な差のある傾向がうかがえる。非行群と登校拒否群とのあいだでは、非行群の方が **E—E** %, つまり pure **E**-反応がわずかながら高く、自己主張の過度、攻撃性の傾向がみられ、投射機制的強いこと、いうなれば劣等感の補償的傾向の顕著であることをうかがわせている。交互作用は、登

校拒否—予後不良群でこの種の反応が低いことに帰因して生じていることがわかる。やはり、適度な自己主張や企図、ないしは、積極性さえも発露させにくいところに予後不変的原因を推定することが可能なように思われる。

I—I% (表2—21) は、いわば pure I-反応である。これは予後改善—不変の要因Bにはほぼ10%水準で有意差のあることをみている。予後不変群の方が改善群より高いことに帰因しており、強迫的な異常固着を、不変群の方がその症状（主訴）の如可にかかわらず強く保持していることによるもののように考えられるのである。

M+I% は、表2—22にみるように、交互作用に20%水準で有意な差のある傾向を示している。これはとりわけ、非行の予後不変群に低く、登校拒否の予後不変群に低いことによるものであろう。一般にM+I% は社会的成熟を意味するものとされているが、非行の予後不変群ではこれが低いことが、非行への予後をわるくしていることは十分に理解可能である。登校拒否の予後不変群でこれが高いことは、社会的成熟度が高い傾向にありながら、I—系統の反応がこれまでみてきたように高いことから、社会成熟は有しつつも、内罰傾向が強すぎて自己制縛的、自縛的になっていることを物語るものといえる。また、すでにみてきたように、部分的には、登校拒否—予後不変群にI%の低いこと、M%の高いことに帰着させうるかもしれない。

以上のように、ここでみてきた結果からは、反応因子別、反応カテゴリー別などにみた限りにおいては、今回の研究に関しては、①登校拒否—予後不変群の示す反応傾向が最も大きく、分析結果に影響を及ぼしていることが示唆されており、次いで、②登校拒否群と非行群とのあいだの反応傾向のパターンのちがいが、そしてまた、③予後改善群と予後不変群とのあいだの反応パターンの相異に影響していることがうかがえるのである。

こうした結果は、従来の我々の、教護・解法児童についての結果や、登校拒否児についての報告をみても、それらと予後との関係における反応傾向のパターンとかなり共通した面をも示しており、P—F Studyでの反応の示すパターンが、その主訴と対応して予後との関連を示唆する点の多いことが注目すべき点ではないかと思われる。そして、そのことがまた、それぞれの症児への治療やカウンセリングの在り方にも重要な方向性を示唆するものと考えてよさそう。

2. 各場面別の反応評点因子の分布傾向について

これまでの、各種反応評点因子別と反応カテゴリー別に、2要因(A「非行」対「登校拒否」とB「予後改善」対「予後不変」)的に配置して示された結果について分散分析に示された結果を中心に考察してきたが、ここでは、さらに、各場面ごとに、各反応評点因子が如何様に分布するかを検討してみることににより、ここにとりあげた症状群（非行と登校拒否）について、予後の次元（改善と不変）をもとり入れて同時的にみて、場面別傾向を吟味し、場面的特徴をみてみることにしたい。

以下に示す表3（表3—1から表3—24まで）は、各場面別の各種反応評点因子の分布の状態を具体的に示したものである。

ここでは、統計的検定などにかかることはしなかったが、

(I) 4群(非行—予後改善, 非行—予後不変, 登校拒否—予後改善, 登校拒否—予後不変)

で、各反応評点因子が一様に出現する場面、

(II) 上記4群について異なって出現する場面、

表3 (表3-1～表3-24) 各場面での反応評点因子別の反応分布
 (各下位表中の「非」は非行,「登」は登校拒否,「改」は予後改善,
 「不変」は予後不変をまた()内は%を示す。)

[表3-1] 場面1 (おかしはにいさんに……) の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	10.5(37.5)	5.5(20.4)	16 (29.1)	改	13 (46.4)	15.5(57.4)	28.5(51.8)	改	2.5(8.9)	3.5(13.0)	6 (10.9)
不変	9 (33.3)	6 (60.0)	15 (40.5)	不変	13 (48.1)	0 (0)	3 (35.1)	不変	2.5(9.3)	1.5(15.0)	4 (10.8)
全体	19.5(35.5)	11.5(1.1)	31 (33.7)	全体	26 (47.3)	5.5(41.9)	41.5(45.1)	全体	5 (9.1)	5 (13.5)	10 (10.9)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)	改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	1 (3.7)	0 (0)	1 (2.7)	不変	0 (0)	0.5(5.0)	0.5(1.4)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	1 (1.8)	0.5(1.4)	1.5(1.6)	全体	0 (0)	1 (2.7)	1 (1.1)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0.5(1.8)	0 (0)	0.5(0.9)	改	1 (3.4)	1 (3.7)	2 (3.6)	改	0.5(1.8)	0.5(1.9)	1 (1.8)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	1 (5.6)	0 (0)	1.5(4.1)	不変	0 (0)	2 (20.0)	2 (5.4)
全体	0.5(0.9)	0 (0)	0.5(0.5)	全体	2.5(4.5)	1 (2.7)	3.5(3.8)	全体	0.5(0.9)	2.5(6.8)	3 (3.3)

[表3-2] 場面2 (わたしのスケート……) の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)	改	4.5(16.1)	1 (40.7)	15.5(28.2)	改	10 (35.7)	7.5(27.8)	17.5(31.8)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	11 (40.7)	3 (30.0)	14 (37.8)	不変	9 (33.3)	2.5(25.0)	11.5(31.1)
全体	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.1)	全体	15.5(28.2)	4 (37.8)	9.5(32.1)	全体	19 (34.5)	0 (27.0)	29 (31.5)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	1 (3.6)	0.5(1.9)	1.5(2.7)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0.5(5.0)	0.5(1.4)	不変	0 (0)	0.5(5.0)	0.5(1.4)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	1 (1.8)	1 (2.7)	2 (2.1)	全体	0 (0)	0.5(1.4)	0.5(0.5)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	1 (3.6)	1.5(5.6)	2.5(4.5)	改	10.5(37.5)	6.5(24.1)	17 (30.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	1 (10.0)	1 (2.7)	不変	7 (25.9)	2.5(25.0)	9.5(25.7)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	1 (1.8)	2.5(6.8)	3.5(3.8)	全体	17.5(31.8)	9 (24.3)	26.5(28.8)

[表3-3] 場面3 (じかちゅうにおしゃべりして……) の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1 (3.6)	2 (7.4)	3 (5.5)	改	16 (57.1)	20 (74.1)	36 (65.5)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	2.5(9.3)	0.5(5.0)	3 (8.1)	不変	16 (59.3)	5.5(55.0)	21.5(58.1)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	3.5(6.4)	2.5(6.8)	6 (6.5)	全体	32 (58.2)	25.5(68.9)	57.5(62.5)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	2 (7.1)	1 (3.7)	3 (5.5)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0.5(5.0)	0.5(1.4)	不変	1 (3.7)	1 (10.0)	2 (5.4)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0.5(1.4)	0.5(0.5)	全体	3 (5.5)	2 (5.4)	5 (5.4)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	9 (32.1)	4 (14.8)	1.3(23.6)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	2 (7.4)	0.5(5.0)	2.5(6.8)	不変	5.5(20.4)	2 (20.0)	7.5(20.3)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2 (3.6)	0.5(1.4)	2.5(2.7)	全体	14.5(26.4)	6 (16.2)	20.5(22.3)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-4〕場面4（そのじどうしわたしには……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	4 (14.3)	4 (14.8)	8 (14.5)	改	3 (10.7)	0 (0)	3 (5.4)	改	7.5(26.8)	12.5(46.3)	20 (36.4)
不変	4 (14.8)	0 (0)	4 (10.8)	不変	2.5(9.3)	0 (0)	2.5(6.8)	不変	13 (48.1)	4.5(45.0)	17.5(47.3)
全体	8 (14.5)	4 (10.8)	12 (13.0)	全体	5.5(10.0)	0 (0)	5.5(6.0)	全体	20.5(37.3)	17 (45.9)	37.5(40.8)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)	改	7.5(26.8)	8 (29.6)	15.5(28.2)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	5 (18.5)	4.5(45.0)	9.5(25.7)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0.5(1.4)	0.5(0.5)	全体	12.5(22.7)	12.5(33.8)	25 (27.2)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	5 (17.9)	2 (7.4)	7 (12.7)	改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	2.5(9.3)	1 (10.0)	3.5(9.5)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	7.5(13.7)	3 (8.1)	10.5(11.4)	全体	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.1)

〔表3-5〕場面5（わたしがおかねもちなら……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	2.5(8.9)	2.5(9.3)	5 (9.1)	改	2 (7.1)	1.5(5.6)	3.5(6.4)	改	4 (14.3)	5 (13.5)	9 (16.4)
不変	4 (15.4)	0 (0)	4 (11.1)	不変	1.5(5.8)	0 (0)	1.5(4.2)	不変	6.5(25.0)	4.5(45.0)	11 (30.6)
全体	6.5(12.0)	2.5(6.8)	9 (9.9)	全体	3.5(6.5)	1.5(4.1)	5 (5.5)	全体	10.5(19.4)	9.5(25.7)	20 (22.0)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	2 (7.1)	0 (0)	2 (3.6)	改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)	改	0.5(1.8)	1 (3.7)	1.5(2.7)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	4.5(45.0)	4.5(12.5)
全体	2 (3.7)	0 (0)	2 (2.2)	全体	1 (1.9)	0 (0)	1 (1.1)	全体	0.5(0.9)	5.5(14.9)	6 (6.6)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	1 (3.6)	2 (7.4)	3 (5.5)	改	12 (42.9)	1.3(48.1)	25 (45.5)	改	3 (10.7)	2 (7.4)	5 (9.1)
不変	1 (3.7)	0 (0)	1 (2.8)	不変	9.5(35.2)	1 (10.)	10.5(29.2)	不変	3.5(13.5)	0 (0)	3.5(9.7)
全体	2 (3.7)	2 (5.4)	4 (4.4)	全体	21.5(39.8)	14 (37.8)	35.5(35.5)	全体	6.5(12.0)	2 (5.4)	8.5(9.3)

〔表3-6〕場面6（おまえのようなちいさいこは……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	13.5(48.2)	7 (25.9)	2 5(37.3)	改	7 (25.0)	11.5(42.6)	18.5(33.6)
不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	13.5(50.0)	2.5(25.0)	1 (43.2)	不変	5.5(20.4)	1.5(15.0)	7 (18.9)
全体	0.5(0.9)	0 (0)	0.5(0.5)	全体	27 (49.1)	9.5(25.7)	3 5(39.7)	全体	12.5(22.7)	13 (35.1)	25.5(27.7)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	1 (3.6)	1.5(5.6)	2.5(4.5)	改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	1 (3.7)	1 (10.0)	2 (5.4)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2 (3.6)	2.5(6.8)	4.5(4.6)	全体	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.1)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	3 (10.7)	3 (11.1)	6 (10.9)	改	2.5(8.9)	4 (14.8)	6.5(11.8)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	4 (14.8)	1 (10.0)	5 (13.5)	不変	2 (7.4)	4 (40.0)	6 (16.2)	不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)
全体	7 (12.7)	4 (10.8)	11 (12.0)	全体	4.5(8.2)	8 (21.6)	12.5(13.6)	全体	0.5(0.9)	0 (0)	0.5(0.5)

〔表3-7〕場面7（うちのはなをつんだりして……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	8 (28.6)	7 (25.9)	15 (27.3)	改	2 (7.1)	1.5(5.6)	3.5(6.4)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	1.5(5.6)	1.5(15.0)	3 (8.1)	不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	9.5(17.3)	8.5(23.0)	18 (19.6)	全体	2.5(4.5)	1.5(4.1)	4 (4.3)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	1 (3.7)	1 (1.8)	改	17 (60.7)	17 (63.0)	34 (61.8)	改	1 (3.6)	0.5(1.9)	1.5(2.7)
不変	0 (0)	0.5(5.0)	0.5(1.4)	不変	23 (85.2)	7 (70.0)	30 (81.1)	不変	2 (7.4)	1 (10.0)	3 (8.1)
全体	0 (0)	1.5(4.1)	1.5(1.6)	全体	40 (72.7)	24 (64.9)	64 (69.6)	全体	3 (5.5)	1.5(4.1)	4.5(4.9)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-8〕場面8（わたしのいちばんよいおにんぎょうをこわした……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	4.5(16.1)	2 (7.4)	6.5(11.8)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	4 (14.8)	0 (0)	4 (10.8)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	8.5(15.5)	2 (5.4)	10.5(11.4)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	22 (78.6)	20.5(75.9)	42.5(77.3)	改	1.5(5.4)	4.5(16.7)	6 (10.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	19 (70.4)	8 (80.0)	27 (73.0)	不変	4 (14.8)	2 (20.0)	6 (16.2)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	41 (74.5)	28.5(77.0)	69.5(75.5)	全体	5.5(10.0)	6.5(17.6)	12 (13.0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-9〕場面9（ばくがかったよ。これはみな……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	8.5(30.4)	7 (25.9)	15.5(28.2)	改	0.5(1.8)	2.5(9.3)	3 (5.5)	改	10.5(37.5)	10 (37.0)	20.5(37.3)
不変	6 (22.2)	1.5(15.0)	7.5(20.3)	不変	1.5(5.6)	2 (20.0)	3.5(9.5)	不変	11.5(42.6)	3 (30.0)	14.5(39.2)
全体	14.5(26.4)	8.5(23.0)	23 (20.0)	全体	2 (3.6)	4.5(12.1)	6.5(7.1)	全体	22 (40.0)	13 (35.1)	35 (38.0)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0.5(0.9)	0 (0)	0.5(0.5)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)	改	4 (14.3)	3 (11.1)	7 (12.7)	改	4.5(16.1)	3.5(13.0)	8 (14.5)
不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	5 (18.5)	1.5(15.0)	6.5(17.6)	不変	2 (7.4)	2 (20.0)	4 (10.8)
全体	0.5(0.9)	0.5(1.4)	1 (1.1)	全体	9 (16.4)	4.5(12.2)	13.5(14.7)	全体	6.5(11.8)	5.5(14.9)	12 (13.0)

〔表3-10〕場面10（わるいことをしたばつに……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	1 (3.7)	1 (1.8)	改	3.5(12.5)	3 (11.1)	6.5(11.8)	改	2 (7.1)	0.5(1.9)	2.5(4.5)
不変	1.5(5.6)	0 (0)	1.5(4.1)	不変	3 (11.1)	1 (10.0)	4 (10.8)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	1.5(2.7)	1 (2.7)	2.5(2.7)	全体	6.5(11.8)	4 (10.8)	10.5(11.4)	全体	2 (3.6)	0.5(1.4)	2.5(2.7)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	1 (3.7)	1 (1.8)	改	9 (32.1)	8 (29.6)	17 (30.9)	改	0.5(1.8)	2 (7.4)	2.5(4.5)
不変	2.5(9.3)	0 (0)	2.5(6.8)	不変	9 (33.3)	4.5(45.0)	13.5(36.5)	不変	3 (11.1)	1 (10.0)	4 (10.8)
全体	2.5(4.5)	1 (2.7)	3.5(3.8)	全体	18 (32.7)	12.5(33.8)	30.5(33.2)	全体	3.5(6.4)	3 (8.1)	6.5(7.1)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	2 (7.1)	0 (0)	2 (3.6)	改	11 (39.3)	11.5(42.6)	22.5(40.9)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	7.5(27.8)	3.5(35.0)	11 (29.7)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2.5(4.5)	0 (0)	2.5(2.7)	全体	18.5(33.6)	15 (40.5)	33.5(36.4)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-11〕場面11（おかあさんはねむたいんだよ。……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	2 (7.1)	1.5(5.6)	3.5(6.4)	改	5 (17.9)	2.5(9.3)	7.5(13.6)	改	1 (3.6)	4 (14.8)	5 (9.1)
不変	2.5(9.6)	1 (10.0)	3.5(9.7)	不変	8 (30.8)	2 (20.0)	10 (27.8)	不変	0 (0)	1 (10.0)	1 (2.8)
全体	4.5(8.3)	2.5(6.8)	7 (7.7)	全体	13 (24.1)	4.5(12.2)	17.5(19.4)	全体	1 (1.9)	5 (13.5)	6 (6.6)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	7 (25.0)	11 (40.7)	18 (32.7)	改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	9 (34.6)	4 (40.0)	13 (36.1)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	16 (29.6)	15 (40.5)	31 (34.1)	全体	0 (0)	0.5(1.4)	0.5(0.5)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	3 (10.7)	0 (0)	3 (5.5)	改	10 (35.7)	7.5(27.8)	17.5(31.8)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	1 (3.8)	0 (0)	1 (2.8)	不変	5.5(21.2)	2 (20.0)	7.5(20.8)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	4 (7.4)	0 (0)	4 (4.4)	全体	15.5(28.7)	9.5(25.7)	25 (27.5)

〔表3-12〕場面12（おまえはよわむしだ。）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	23 (82.1)	25.5(94.4)	48.5(88.2)	改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	21.5(79.6)	8.5(85.0)	0 (81.1)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	44.5(80.9)	34 (91.9)	78.5(85.3)	全体	0 (0)	0.5(1.4)	0.5(0.5)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	1 (3.6)	1 (3.7)	2 (3.6)	改	1.5(5.4)	0 (0)	1.5(2.7)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	1.5(5.6)	0.5(5.0)	2 (5.4)	不変	1.5(5.6)	1 (10.0)	2.5(6.8)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2.5(4.5)	1.5(4.1)	4 (4.3)	全体	3 (5.5)	1 (2.7)	4 (4.3)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	2.5(8.9)	0 (0)	2.5(4.5)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	2 (7.4)	0 (0)	2 (5.4)	不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	4.5(8.2)	0 (0)	4.5(4.9)	全体	0.5(0.9)	0 (0)	0.5(0.5)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

【表3-13】場面13（こんどこそとっているところを……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)	改	4 (14.3)	4.5(16.7)	8.5(15.5)	改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)
不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	7 (26.9)	0.5(5.0)	7.5(20.8)	不変	1 (3.8)	0 (0)	1 (2.8)
全体	1.5(2.8)	0 (0)	1.5(1.6)	全体	11 (20.4)	5 (13.5)	16 (17.6)	全体	1 (1.9)	0.5(1.4)	1.5(1.6)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0.5(1.9)	0.5(0.9)	改	19.5(69.6)	15 (55.6)	34.5(62.7)	改	3.5(12.5)	6.5(24.1)	10 (18.2)
不変	1.5(5.8)	1 (10.0)	2.5(6.9)	不変	13 (50.0)	7.5(75.0)	20.5(56.9)	不変	3 (11.5)	1 (10.0)	4 (11.1)
全体	1.5(2.8)	1.5(4.1)	3 (3.3)	全体	32.5(60.2)	22.5(60.8)	55 (60.4)	全体	6.5(12.0)	7.5(20.3)	14 (15.4)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

【表3-14】場面14（そんなところにかくれて……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	15.5(55.4)	12.5(46.3)	28 (50.9)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	11 (40.7)	3 (30.0)	14 (37.8)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	26.5(48.2)	15.5(41.9)	42 (45.7)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	1.5(5.4)	1 (3.7)	2.5(4.5)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	1 (3.7)	0 (0)	1 (2.7)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2.5(4.5)	1 (2.7)	3.5(3.8)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	11 (39.3)	13.5(50.0)	24.5(44.5)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	15 (55.6)	7 (70.0)	22 (59.5)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	26 (47.3)	20.5(55.4)	46.5(50.5)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

【表3-15】場面15（けがはしなかったかい？）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	2 (7.1)	2 (7.4)	4 (7.3)	改	2.5(8.9)	1 (3.7)	3.5(6.4)	改	0.5(1.8)	0 (0)	0.5(0.9)
不変	5 (18.5)	0.5(5.0)	5.5(14.9)	不変	1 (3.7)	0 (0)	1 (2.7)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	7 (12.7)	2.5(6.8)	9.5(10.3)	全体	3.5(6.4)	1 (2.7)	4.5(4.9)	全体	0.5(0.9)	0 (0)	0.5(0.5)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	21 (75.0)	21.5(79.6)	42.5(77.2)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	16.5(61.1)	8.5(85.0)	2.5(67.6)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	37.5(68.2)	30 (81.1)	67.5(73.4)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	2 (7.1)	2.5(9.3)	4.5(8.2)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	4.5(16.7)	1 (10.0)	5.5(14.9)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	6.5(11.8)	3.5(9.5)	10 (10.9)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(表3-16) 場面16 (あなたのボールをとったりして……) の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1 (3.6)	0.5(1.9)	1.5(2.7)	改	2 (7.1)	1.5(5.6)	3.5(6.4)	改	2 (7.1)	1 (3.7)	3 (5.5)
不変	1 (3.7)	1 (10.0)	2 (5.4)	不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	2 (7.4)	0 (0)	2 (5.4)
全体	2 (3.6)	1.5(4.1)	3.5(3.8)	全体	2.5(4.5)	1.5(4.1)	4 (4.3)	全体	4 (7.3)	1 (2.7)	5 (5.4)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0.5(1.8)	0 (0)	0.5(0.9)	改	0.5(1.8)	1 (3.7)	1.5(2.7)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	1 (3.7)	0.5(5.0)	1.5(4.1)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.1)	全体	1.5(2.7)	1.5(4.1)	3 (3.3)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	22 (78.6)	23 (85.2)	45 (81.8)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	1 (10.0)	1 (2.7)	不変	22 (81.5)	7.5(75.0)	29.5(79.7)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	1 (2.7)	1 (1.1)	全体	44 (80.0)	30.5(82.4)	74.5(81.0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(表3-17) 場面17 (でかけるから……) の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0.5(1.8)	2.5(9.3)	3 (5.5)	改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)	改	3.5(12.5)	2.5(9.3)	6 (10.9)
不変	1 (3.8)	1.5(15.0)	2.5(6.9)	不変	1 (3.8)	0 (0)	1 (2.8)	不変	4.5(17.3)	2.5(25.0)	7 (19.4)
全体	1.5(2.8)	4 (10.8)	5.5(6.0)	全体	2 (3.7)	0 (0)	2 (2.2)	全体	8 (14.8)	5 (13.5)	13 (14.3)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	3 (10.7)	3 (11.1)	6 (10.9)	改	20 (71.4)	19 (70.4)	39 (70.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	1 (10.0)	1 (2.8)	不変	19.5(75.0)	5 (50.0)	24.5(68.1)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	3 (5.5)	4 (10.8)	7 (7.7)	全体	39.5(73.1)	24 (64.9)	63.5(69.8)

(表3-18) 場面18 (おたんじょうびによんであげない……) の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1.5(5.4)	1 (3.7)	2.5(4.5)	改	7.5(26.8)	6 (22.2)	13.5(24.5)	改	3 (10.7)	3 (11.1)	6 (10.9)
不変	3.5(13.0)	1 (10.0)	4.5(12.2)	不変	6 (22.2)	2 (20.0)	8 (21.6)	不変	4 (14.8)	0 (0)	4 (10.8)
全体	5 (9.1)	2 (5.4)	7 (7.6)	全体	13.5(24.5)	8 (21.6)	21.5(23.4)	全体	7 (12.7)	3 (8.1)	10 (10.9)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0.5(1.8)	1.5(5.6)	2 (3.6)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	2 (7.4)	0 (0)	2 (5.4)	不変	2 (7.4)	0.5(5.0)	2.5(6.8)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2.5(4.5)	1.5(4.1)	4 (4.3)	全体	2 (3.6)	0.5(1.4)	2.5(2.7)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	7.5(26.8)	7 (25.9)	14.5(26.4)	改	8 (28.6)	8.5(31.5)	16.5(30.0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	5 (18.5)	5 (50.0)	10 (27.0)	不変	4.5(16.7)	1.5(15.0)	6 (16.2)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	12.5(22.7)	12 (32.4)	24.5(26.6)	全体	12.5(22.7)	10 (27.0)	22.5(24.5)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-19〕場面19（またねしょうべんしたのね。……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	12 (42.9)	12.5(46.3)	24.5(44.5)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	6.5(24.1)	1 (10.0)	7.5(20.3)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	18.5(33.6)	13.5(36.5)	32 (34.8)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	1 (3.7)	1 (1.8)	改	14 (50.0)	13 (48.1)	27 (49.1)	改	2 (7.1)	0.5(0.9)	2.5(4.5)
不変	2.5(9.3)	0 (0)	2.5(6.8)	不変	15 (55.6)	8 (80.0)	23 (62.2)	不変	3 (11.1)	1 (10.0)	4 (10.8)
全体	2.5(4.5)	1 (2.7)	3.5(3.8)	全体	29 (52.7)	21 (56.8)	50 (54.3)	全体	5 (9.1)	1.5(4.1)	6.5(7.1)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-20〕場面20（まちがってきみのコマ……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.8)	改	2.5(8.9)	2 (7.4)	4.5(8.2)	改	1.5(5.4)	1 (3.7)	2.5(4.5)
不変	1.5(5.6)	0 (0)	1.5(4.1)	不変	3.5(13.0)	0 (0)	3.5(9.5)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	2.5(4.5)	0 (0)	2.5(2.7)	全体	6 (10.9)	2 (5.4)	8 (8.7)	全体	1.5(2.7)	1 (2.7)	2.5(2.7)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	20 (71.4)	21.5(79.6)	41.5(75.5)	改	3 (10.7)	2.5(9.3)	5.5(10.0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	19.5(72.2)	9 (90.0)	28.5(77.0)	不変	2.5(9.3)	1 (10.0)	3.5(9.5)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	39.5(71.8)	30.5(82.4)	70 (76.0)	全体	5.5(10.0)	3.5(9.5)	9 (9.8)

〔表3-21〕場面21（おひるからもずっとのる……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	2 (7.1)	0.5(1.9)	2.5(4.5)	改	17 (60.7)	8.5(31.5)	5.5(46.4)	改	6.5(23.2)	5 (55.6)	21.5(39.1)
不変	0.5(1.9)	1.5(15.0)	2 (5.4)	不変	7 (25.9)	2.5(25.0)	9.5(25.7)	不変	16.5(61.1)	5 (50.0)	21.5(58.1)
全体	2.5(4.5)	2 (5.4)	4.5(4.8)	全体	24 (43.6)	11 (29.7)	35 (38.0)	全体	23 (41.8)	20 (54.1)	43 (46.7)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0.5(1.8)	0 (0)	0.5(0.9)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0.5(1.9)	0 (0)	0.5(1.4)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.1)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	2 (7.1)	0 (0)	2 (3.6)	改	0 (0)	2 (7.4)	2 (3.6)	改	0 (0)	1 (3.7)	1 (1.8)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	2 (7.4)	0.5(5.0)	2.5(6.8)	不変	0.5(1.9)	0.5(5.0)	1 (2.7)
全体	2 (3.6)	0 (0)	2 (2.2)	全体	2 (3.6)	2.5(6.8)	4.5(4.9)	全体	0.5(0.9)	1.5(4.1)	2 (2.2)

〔表3-22〕場面22（あなたはこくです。）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	1 (3.7)	1.5 (5.8)	2.5 (4.7)	改	1 (3.7)	0 (0)	1 (1.9)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	2 (7.4)	1 (10.0)	3 (8.1)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0.0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	3 (5.6)	2.5 (6.9)	5.5 (6.1)	全体	1 (1.9)	0 (0)	1 (1.1)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	1 (3.7)	4 (15.4)	5 (9.4)	改	22.5 (83.3)	18 (69.2)	40.5 (76.4)	改	1.5 (5.6)	2.5 (9.6)	4 (7.5)
不変	1.5 (5.6)	1 (10.0)	2.5 (6.8)	不変	21.5 (79.6)	6 (60.0)	27.5 (74.3)	不変	2 (7.4)	2 (20.0)	4 (10.8)
全体	2.5 (4.6)	5 (13.9)	7.5 (8.3)	全体	44 (81.5)	24 (66.7)	68 (75.6)	全体	3.5 (6.5)	4.5 (12.5)	8 (8.9)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)

〔表3-23〕場面23（おつゆがさめてしまって……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	0 (0)	1 (3.7)	1 (1.8)	改	0 (0)	0.5 (1.9)	0.5 (0.9)	改	11 (39.3)	9 (33.3)	20 (36.3)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0.5 (1.9)	0.5 (5.0)	1 (2.7)	不変	7 (25.9)	2 (20.0)	9 (24.3)
全体	0 (0)	1 (2.7)	1 (1.1)	全体	0.5 (0.9)	1 (2.7)	1.5 (1.6)	全体	18 (32.7)	11 (29.7)	29 (31.5)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	3.5 (12.5)	1.5 (5.6)	5 (9.1)	改	0 (0)	3.5 (13.0)	3.5 (6.4)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0.0)
不変	2 (7.4)	0.5 (5.0)	2.5 (6.8)	不変	1.5 (5.6)	0.5 (5.0)	2 (5.4)	不変	0 (0)	1 (10.0)	1 (2.7)
全体	5.5 (10.0)	2 (5.4)	7.5 (8.2)	全体	1.5 (2.7)	4 (10.8)	5.5 (6.0)	全体	0 (0)	1 (2.7)	1 (1.1)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	1 (3.6)	1.5 (5.6)	2.5 (4.5)	改	12.5 (44.6)	10 (21.3)	22.5 (40.9)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	15.5 (57.4)	5.5 (55.0)	21 (56.8)	不変	0.5 (1.9)	0 (0)	0.5 (1.4)
全体	1 (1.8)	1.5 (4.1)	2.5 (2.7)	全体	28 (50.9)	15.5 (41.9)	43.5 (47.3)	全体	0.5 (0.9)	0 (0)	0.5 (0.5)

〔表3-24〕場面24（てがきたないね。ほんをだすときは……）の反応分布

E'	非	登	全 体	E(E)	非	登	全 体	e	非	登	全 体
改	1 (3.6)	0.5 (1.9)	1.5 (2.7)	改	4.5 (16.1)	5 (18.5)	9.5 (17.2)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)
不変	0.5 (1.9)	0 (0)	0.5 (1.4)	不変	5 (18.5)	1 (10.0)	6 (16.2)	不変	0.5 (1.9)	0 (0)	0.5 (1.4)
全体	1.5 (2.7)	0.5 (1.4)	2 (2.2)	全体	9.5 (17.3)	6 (16.2)	15.5 (16.8)	全体	0.5 (0.9)	0 (0)	0.5 (0.5)

I'	非	登	全 体	I(I)	非	登	全 体	i	非	登	全 体
改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	8 (28.6)	2.5 (9.3)	10.5 (19.1)	改	2.5 (8.9)	4 (14.8)	6.5 (11.8)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	3.5 (13.0)	1 (10.0)	4.5 (12.2)	不変	2.5 (9.3)	2 (20.0)	4.5 (12.2)
全体	0 (0)	0 (0)	0 (0)	全体	11.5 (20.9)	3.5 (9.5)	15 (16.3)	全体	5 (9.1)	6 (16.2)	11 (12.0)

M'	非	登	全 体	M	非	登	全 体	m	非	登	全 体
改	0.5 (1.8)	0 (0)	0.5 (0.9)	改	0 (0)	0 (0)	0 (0)	改	11.5 (41.1)	15 (55.6)	26.5 (48.2)
不変	0 (0)	0 (0)	0 (0)	不変	0.5 (1.9)	0 (0)	0.5 (1.4)	不変	14.5 (53.7)	6 (60.0)	20.5 (55.4)
全体	0.5 (0.9)	0 (0)	0.5 (0.5)	全体	0.5 (0.9)	0 (0)	0.5 (0.5)	全体	26 (47.3)	21 (56.8)	47 (51.1)

(Ⅲ)非行群と登校拒否群で上記(Ⅰ)か(Ⅱ)かの傾向を示す場面、

(Ⅳ) 予後改善群と予後不変群で上記(Ⅰ)か(Ⅱ)かの傾向を示す場面

などがうかがえることは興味深いものである。このことは、今後、対象児のもつ主訴などによって、どの場面を重点的にウェイトづけをしてみたいかなどの点についてもひとつの示唆を与えてくれるものと思うのである。

こうした点について、ここに示した資料は、今後更に詳細に各種の症状や主訴、行動異常を示す対象児について場面的な質的ないし量的ウェイトをおいた評価への方向性を与えてくれるであろうと考える。

これについて更に詳細な言及は本報告では割愛するが、とりあえず、具体的資料を参照していただくにとどめたい。

IV. 結論と要約

中学校期にある非行と登校拒否の症状を呈するものを対象として、その予後を改善と不変に分けて、相談所等のレベルで intake した時点での Rosenzweig P-F Study への反応パターンを比較検討した。

その結果、予後の改善・不変を問わず、非行と登校拒否で反応の異なるもの、非行・登校拒否の如何を問わず、予後の改善・不変で反応の異なるもの、非行—予後改善、非行—予後不変、登校拒否—予後改善、登校拒否—予後不変のもので反応にかなりの差異のみられるものなどが見出された。

このことは、反応評点因子別、反応カテゴリー別、場面別などについて特徴的に見出され、今後の P-F 利用について、対象児 のもつ主訴 と予後 との関係にかなりの示唆を与えるものであった。

参 考 文 献

- 1) 一谷 彊・西川 満・中島 景子 教護・触法児童のP-F 反応と予後 京都教育大学紀要 Ser, A, No. 53, 1978, pp. 23—45.
- 2) 一谷 彊・津田 浩一・飯田 美智子・出井 康子 登校拒否児の性格と予後〔Ⅰ〕——Rosenzweig P-F Study にみられる反応様式と予後調査との関係についての検討—— 京都教育大学紀要 Ser. A, No. 44, 1974, pp. 1—20.
- 3) 住田 勝美・林 勝造・一谷 彊 改訂版 P-F スタディ使用手引 1964 京都 三京房
- 4) 住田 勝美・林 勝造・一谷 彊 ローゼンツェイク人格理論 1964 京都 三京房
- 5) Rosenzweig, S. The Rosenzweig Picture-Frustration (P-F) Study Basic Manual. 1978, St. Louis: Rana House.
- 6) Rosenzweig, S. Aggressive Behavior and the Rosenzweig Picture-Frustration Study. 1978, New York: Praeger Publishers.
- 7) Rosenzweig, S. Sex Differences in Reaction to Frustration among Adolescents. In J. Zubin & A. Freedman (Eds.) The Psychopathology of Adolescence. 1970, New York: Grune and Stratton, pp. 90-107.
- 8) Rosenzweig, S., and Kogan, Kate L. Psychodiagnosis: An introduction to the integration of tests in dynamic clinical practice. 1949, New York: Grune and Stratton.

SUMMARY

The purpose of the present research was to investigate the relationship of the Rosenzweig Picture-Frustration reaction patterns to the prognosis with special reference to the junior high school students with symptoms of delinquency or school-refusal.

The scoring systems or scoring categories of each group were mainly treated by 2×2 factor analysis of variance. The raw data were analyzed through each scoring factor, each scoring category, and each frustration situation.

The main results were as follows:

(1) The reaction patterns are different between the delinquent students and the school-refusal students.

(2) They are different between the poor-prognosis students and the good-prognosis students.

(3) They are also different among the four groups of students in consideration together with the two factors ("delinquency vs. school-refusal" and "good-prognosis vs. "poor-prognosis").

These results were suggestible of the future approach to the quantitative or the qualitative weighting methods of the reaction patterns of each situation in the Rosenzweig P-F Study.